令和２年度 第１回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日 時：令和３年２月25日(木) 午後１時30分～午後３時30分
場 所：万田炭鉱館 多目的ルーム
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員24名（別紙出席者名簿のとおり）
事務局：産業振興課課長 田中憲士、同課長補佐兼観光推進室室長 江口雅臣、
同副主任 西卓也、同副主任 平山裕也
ジャパンインターナショナル総合研究所 松崎良祐、板野友里菜、井戸湧大
オブザーバー：荒尾市観光協会事務局長 徳村美佳

1. 開会

田中課長が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

2. 委嘱状交付・委員紹介

田中課長が、委嘱状の交付については机上での配付とすること、任期は令和３年１月20日から令和５年１月19日までとすること、委員の紹介についても資料１の名簿での紹介とすることを説明した。また、九州産業大学の室岡委員については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインでの出席となることを報告した。

3. 委員長選出及び副委員長指名

田中課長が、当委員会条例第５条第１項により委員長は委員の互選により選出することとなっているが、事務局から委員長を提案することを提案し、了承されたため、荒尾市観光協会の会長である山代委員を提案した。質疑等なく、了承された。その後、山代委員長があいさつを行うとともに、当委員会条例第５条第１項により、副委員長として室岡委員を指名した。山代委員長のあいさつに続いて、室岡副委員長があいさつを行った。

（山代委員長）

・これまではグリーンランドを中心に観光の都市づくりを進めてきたが、万田坑の世界文化遺産登録や荒尾干潟のラムサール条約登録、最近では野原八幡宮風流が国重要無形民俗文化財に指定されるなど、今ようやく観光都市に向けた準備が整ったと考えている。
・荒尾市が観光都市として進んでいくために皆様方のご意見をお願いしたい。

（室岡副委員長）

・このような委員会に参加させていただき光栄に思っている。委員の皆様は観光の第一線で活躍される方ばかりなのに対し、自分は大学に所属する立場であり、具体的な話はあまりできないとは思うが、何かしらお力になれればと考えている。
・観光は、荒尾市のまちづくりを実現するための手段として取り組んでいくものだと考えている。現状と課題を話しながら、「こうありたい」、「自分たちのまちをこうしたい」、「このようなことに取り組みたい」という話をお聞かせ願えればと思う。

4. 議事

(1)第 3 期荒尾市観光振興計画(仮称)の策定方針について

事務局が、資料 2-1～2-3 及び資料 3-1 に基づき説明した。質疑・意見等はなかった。

(2)荒尾市観光振興計画の総括について

事務局が、資料 3-1 及び資料 3-2、参考資料 2 に基づき説明した。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○ テーラー乗車体験は、冬場は海苔の関係で実施できないし、潮の影響も受けるため、短期間しかできないと思う。どのくらいの期間実施してどのくらいの集客があったのか。そもそも、テーラーは荷物を運ぶものであり、道路交通法の問題など警察の許可等も必要ではないのか。事故の対策等は考えられているのか。

また、道の駅は、現段階での評価は〇になっているが、進捗状況に鑑みると〇をつけるべきではないと思う。

→ 利用期間について、潮が引いてればいつでも運行可能であり、年中運行したいところでもあるが、漁業者さんへの配慮から 10 月以降の海苔の時期は運行をやめている状況である。今年度はコロナ禍で 4 月の 3 日間しか開催できなかったが、今後も海苔の時期以外は運行したいと考えている。※補足: 3 日間の開催で、親子連れを中心に市内外から約 60 人の方に参加いただいている(参考資料 2 を参照)。

なお、テーラーは分類的には原付となっており、ナンバーをつければ公道も走れる。海での走行については、警察と相談し、公道を走らなければ問題ないとの見解をいただいている。事故の対策としては、参加者に保険をかけているところである。

テーラー乗車体験は、漁業者の協力があってのものだと考えている。海は漁業者の職場であり、そこの環境を守るのは当然のことであるため、漁業者の所得や漁獲量を確保していきながら、資源を観光でどう活用していくかという難しいテーマに取り組んでいるところである。これら両方のテーマを体感できるのが荒尾市の魅力でもあるため、観光と漁業の両立を目指していきたい。

テーラー乗車体験については大きな可能性を感じているものの、それを漁業者全員が歓迎している状況ではないという現状も理解しているので、きちんと対話をしながら、観光客に楽しんでもらい、かつ、漁業者の所得にもつながるような仕組みを、委員各位のご意見をいただきながら検討していきたいと考えている。

また、道の駅に関する評価について、今回の総括は、現行計画に記載した内容に対してどの程度進捗できたか、という視点で評価しており、計画では「道の駅の整備における基本的な方向性の検討」が目標となっていたので、〇評価としたところである。(事務局)

○ 内容は理解したが、テーラー乗車体験は観光の目玉となるのか。発想は面白く、漁業者の利益にも少しはなるかもしれないが、目玉にはならないのではと思う。

○ 漁業者の迷惑にはならず、漁業者のためになるよう方法を模索してやっていけたらと思う。

○ おもやいタクシーは、全国で初めて行っている事業であるが、観光にとって大事なツールになる

のではないかと考えている。AIやGPSの位置情報システム、電気自動車を使った未来のタクシーとして、通常タクシーの 2/3～半分くらいの費用で荒尾市のどこへでも行けるシステムを構築している。通常のタクシー利用者が減っている中、おもやいタクシー利用者は増えている状況である。

○ おもやいタクシーについて、観光客にどのくらい利用されているのか。荒尾市民に対しては認知度が高まって利用されていると思うが、大まかでいいので観光客の利用率を教えてほしい。

○ 観光客の利用率は現時点では 10%以下である。ほとんどは荒尾市民の利用である。アフターコロナにおいて、駅利用者や万田坑利用者に向けて威力を発揮すると思っている。

○ 観光客に対する PR が足りないのではないかと思う。観光客に存在が知られていないのでは意味がないため、観光として活用できるように PR をお願いしたい。

○ 市と協力しながら PR 等行っていきたい。

→ 現在、おもやいタクシーを絡めた PR 動画を制作している。電車とおもやいタクシーを乗り継いで荒尾市内を旅行するというテーマの動画にする予定で、SNS でも発信していくことを考えている。（事務局）

（3）観光における現状及び課題等について

事務局が、資料 4-1～4-3 に基づき説明した。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○ 当社では、コロナ禍で鹿児島等遠方からの来訪が減っており、熊本・福岡からの来訪が多くなっている状況である。今後、新型コロナウイルスが収まれば、ターゲットの相手が周辺からやや遠方に拡がってくると思うので、時期を含め、状況の見極めが大事になるかと思う。

○ 現状、グリーンランドとセットにしたプランでないと予約が入らない状況である。グリーンランドで 1 日遊んで、次の日どこに行くか、他の施設との組み合わせがうまくできればよいと思う。知ってもらわないと利用してもらえないので、PRをどう進めるかを課題として話し合っていければよいと思う。

○ 荒尾駅の利用状況について、現状では、乗車人員・売上等は前年の半分以下になっている。通学利用があるためなんとか維持できているが、通勤は車にシフトされているようで、大きく落ち込んでいる。観光利用についても、以前は熊本方面からグリーンランドへ行く人が見られたが、今は見られない。当社としても観光に力を入れていきたいと思っているが、今の状況で何ができるかは考え中である。
熊本市の駅ビルが 4 月にオープンするため、そこの利用客をどう荒尾市に呼び込むかがポイントであり、若い人はグリーンランドに来てくれるのではないかと思うが、はっきりしたことは分からない。

○ 路線バスは荒尾市内では生活交通として利用いただいているため、輸送人員は大きくは減っていない状態である。市の施策の効果もあり、利用が落ちた感覚はない。玉名・熊本方面では、新

型コロナウイルスの影響もあり、「密」になるバスを避けて自家用車を利用する人も多いのではないかと思う。
マジャク釣り体験は、体験の後に食の体験を提供することで、魅力向上に繋がるのではないか。マジャクの美味しい食べ方を発信することで、口コミで広がるのではないか。

○　利用者はコロナ禍において減少しており、前年の 50%を切る状態で推移している。荒尾市と大牟田市をつなぐ唯一の路線があり、グリーンランドとの関係性が深いと考えている。例年であれば、3 月第 2 週の卒業シーズンに学生が春休みに入り、平日・休日関係なく、毎日約 1000 人程度 JR 大牟田駅を利用され、当社のバスを利用されている状態であった。しかし、コロナ禍により昨年度は0となっている。
今日の会議に参加し、正直、荒尾市にこのような魅力があったのかと驚いている。会議に参加した以上はできることをしていきたいと考えている。要となるのは PR であり、どう発信していくかが課題だと思う。協力できることは最大限に協力したい。

○　観光客の利用は激減している。周遊する際の観光客の移動を担っていきたいし、アフターコロナにおいてはこれまでの損失を取り返すように努めたいと思う。
情報の届け方については、どういう情報を、どういう手段で、どういう人に届けていくか、なかなか頭に浮かばないので、プロのアドバイザーからアドバイスを得ながら、観光周遊を促進し、アフターコロナにおいて荒尾市が先んじて取組みが進められるよう、今回の会議を通して話し合えたらと思う。

○　前身の委員会から参画しているが、結局 PDCA サイクルの Do の部分がネックではないかと思う。市の計画なので幅広くなっているが、Do の部分に絞って、官民連携で何ができるかを考えていく必要があるのではないかと思う。

○　現行計画の中で、食を活かしたプログラムが進まなかった部分については、もっと目玉になるものを検討する必要があったと思った。お好み焼きの他にも何かないか、万田坑につながる食などを考えていかなくてはいけないと思う。
飲食店それぞれでの SNS での PR がもっと必要だと感じている。

○　広域観光に関しては、例えば、JR 九州の観光列車「36＋3」が運行されているのに合わせ、玉名駅での物品販売を行っている。販売に当たり、荒尾市・玉名市・南関町・長洲町・和水町・玉東町で特産品のパンフレットを作成した。地道な取組みではあるが、県外からの来訪者に荒尾市のことを知っていただくとともに、次の来訪につながるよう、パンフレットの掲示をしている。
県内に住んでいるが、荒尾市へはグリーンランドや小代焼といったスポットで行くことが多いので、各スポットがつながって滞在型になっていけばよいと思う。

○　本会議に参加するに当たり、知人や友人に観光に関する要望を訊いてみたところ、食への要望

が一番多かった。荒尾市で何を食べると言われた時に食べる物がなく、メロンパンしか思い浮かばないと言っていた。荒尾市の名物は必ず欲しく、お土産品よりも、現地で食べられるものを開発していただきたいと思う。玉名市の「キズナ飯」のように、1 つの特産品をいろいろなお店でアレンジするなど、互いに切磋琢磨できるような仕掛けをすることで、飲食業界の発展につながることを希望する。併せて、Instagram 等の SNS での発信をお願いしたい。
荒尾干潟について、知名度はあまりないと思うので、PR に力を入れてほしい。テレビ番組で紹介されていたが、情報が少なすぎて、実際に行ってみようとなる人は、おそらく少ないと思う。いつ行けばどのような鳥が見られるのか、何時に行けば夕陽の絶景が見られるのかなどの情報が現状では得にくいので、細かい部分までネット上で情報発信をしてほしい。
夕陽を堪能できるスポットを作ってほしい。テレビ番組で取り上げられるようにはなってはきたが、どこに行けばよいのかと訊かれても答えられない。どこに行っても夕陽は見られるのだが、入口や駐車場を整備し、カフェなども設置すると、堪能できる場所になり、もっと利用されると思う。
情報発信においては Instagram を活用してほしい。現状、タグ付けが足りていないと思う。自然にタグが集まらないと情報が拡散しないと思うので、それぞれの部署に協力してもらい、何とか多くの人に荒尾市の魅力を知ってもらいたいと思う。

○ Instagram を利用する中で、特に関心が高いのは食だと思う。「＃荒尾 食」「＃荒尾の飲食店」等、データとしてどのくらいの人が見ているのか分かるようになっているので、関心が高いのが分かる。情報を得る主流が SNS なので、もっと強化していく必要があるではないか。
名物が荒尾梨しか思い浮かばない。荒尾市に来るまで荒尾市自体も知らなかった。グリーンランドは大牟田市と言われるほどの知名度の低さもある。荒尾市民においても、訊かれた時におすすめを言えるよう、住んでいる中で得た情報を発信できればよいのではと思う。資料の中に荒尾市のスポットやおすすめが載っていたので行ってみようと思う。荒尾市に住んでいても知らないことが多いので、情報共有をして、知っていければと思う。
個人的には九州荒尾オリーブ村がおすすめである。荒尾市がイタリアのトスカーナという産地と似た気候であるため育てられている良いオリーブである。もっと知ってほしい。

○ 荒尾市には、コロナ禍でも楽しめる魅力がたくさんあると思う。荒尾干潟は、自粛期間中、県外ナンバーの車もあり、チャンスであると感じた。情報を発信していけたらと思う。
カフェの店員と話したが、来てもらった人が発信してくれて、発信した Instagram から情報収集をしてカフェを目的に来てくれることがありがたいと言われていた。来た人が発信したくなる仕掛けを行うべきだと思う。
2 月 19 日～23 日に荒尾干潟そばの「蔵満海岸」でアンケート調査をしたところ、テレビ番組を観て来たという人もいたし、何回も来ている人もいたが、「蔵満海岸」という名前は知られていなかった。来訪者・リピーターをもっと拡げられるよう、自分もお手伝いができればと思う。

○ テレビ番組のリポートをする中で、「ネタに困った時の荒尾市」と言われるほど、荒尾市には魅力

があると思っている。しかし、番組制作の視点では、荒尾市の魅力は点でしか映らず、いざ観光になると線になっていない状態で、集客につなげられていないと思う。
「SNS 世代」と「テレビ世代」に大きなギャップを感じており、最近は、テレビ番組から受動的に情報を得るのではなく、自分が欲しい情報を選んでいる時代に変わってきていると感じる。テレビ業界が衰退している現状があり、SNS をどれだけ強化し、統合して、「これを見れば分かる」というものを 1 つ確立するのが課題かと思う。情報が多すぎても選べない。他の自治体では観光アプリの事例もあるので、何か分かりやすい媒体が必要だと思う。

○ 資料のボリュームが多すぎるので、もう少しコンパクトにしてもらえればと思う。
新型コロナウイルスが収まれば国民が一斉に動き出すと思うので、どうにかして荒尾市にお客さんを呼びたい。

○ 当社では、従来の旅行商品はもちろん、着地型観光にも力を入れ、荒尾市の良いところを企画・販売していきたいと考えている。荒尾市の現状は全国的にメジャーなものがあるわけでもないため、関係事業者の協力を得ながら、ポテンシャルの高い素材を見つけ出し、より良い商品を作り、全国に発信していきたい。

○ 女性委員の意見を聞いていると、中高年の男性ばかりで議論していても始まらないと痛感した。
今後は SNS がテーマになると思うので、できれば観光協会に SNS の発信部隊を作ってもらい、女性の意見も拾いながら拡散していけないかと思う。
グリーンランドと万田坑のリピート率が比較してあったが、リピーターを如何に増やしていくかは観光の要だと思う。1 回来てもらっても 2 回目につながらなければ廃れてしまうのは観光の大原則であるため、リピート対策は必要である。
神社・仏閣を巡るのが観光のルーツだと思っており、四ツ山神社には注目している。お宮を使った観光ルートも考えていただければと思う。

○ 今年度は、熊本県と連携し、県独自の旅行キャンペーンや新型コロナウイルス対策に係る助成等を実施した。今後も、補正予算で県独自のキャンペーンを予定している。
熊本県は、データ収集やデジタルマーケティングについて他県に比べると遅れており、HP の閲覧者の属性など基本的なデータも取れていない状態である。どこの県から、どのような理由で熊本県に来ているのかなど、地道に収集・分析し、ターゲットを明確化していく必要がある。
グリーンランドは若者・家族向け、万田坑はシニア層向けで、コンテンツによってターゲットが変わるし、ターゲットが変われば情報発信の仕方も変わる。分析を十分にして、求めている層に向けて刺さるような情報発信の仕方を一緒に考えていきたい。

○ 荒尾梨は後継者不足で悩んでいる。儲かる農業をして頑張っていきたい。農業体験などを観光素材として活用していただくことで、副業にするとともに、子どもたちに農業の良さを教えていくきっかけにしたい。

○　生活する中で近くに良いスポットがあると実感しており、カフェ「Rinonka」は女性でいっぱいで、「中川オリーブ園」は予約をしないと入れない状況である。
漁業は今弱体化している。後継者が少なく、また女性部もない。そのような中、企業と連携した取組みを推進している。これにより漁業者の負担が減り、後継者が2・3人増えている。このまま進めていきたいと思うが、連携企業が見つからないという現状もある。
夕陽を活かして魅力ある所にするためには、海岸沿いに駐車場を整備することが大事だと思う。
オリーブ栽培についても後継者が増えない状況である。生産者も高齢化していて、生産量がどこまで伸びるか分からない。個人で加工品を作るのは大変であり、販売方法や加工方法等を指導してくれる人がいたらもっと違うのではないか。特産品としてはあさりやマジャクがあるが、自然の状況によって変わるものであるため、いかに継続するかが課題である。

○　荒尾市は長年、炭坑の産業都市として進んできたが、観光に目を向けて磨き上げをやっていこうとしてきたところ。地域的には海も平地も山もあるので、産物的にも恵まれており、食の開発を行っていかなければならないと思う。
観光スポットの磨き上げと、ターゲットに向けた時代に合った情報発信が重要で、協力しながら良い形で荒尾市のアピールをしていきたい。

○　以前は観光振興計画という大きな流れを決めていく委員会と、戦術を検討する専門部会があったが、今回からこれを包含するということで、今回出た意見のような具体的な取組みを議論できる時間や計画に落とし込んでいく時間を配慮していく必要があると思う。スケジュール的には、次回はターゲット・コンセプトの話題になっているが、個別の戦略についての議論も並行して進めていく必要があるのではないかと思う。
また、観光の位置づけや目的については、以下のように考えている。
①まちづくりの手段
何のために観光事業に取り組み、観光振興計画を作っていくのか。今回は、情報発信や食の振興等様々な意見が出ているが、こうしたことを言語化してまとめていく必要がある。
②観光は時代を映す鏡
観光は、時代の変化を映す鏡と言われるように、時代と共に変化する。近年は、体験型旅行のニーズに続いて、インバウンドの増加、そして現在は「ニューノーマル」と言われる時代となり、SNS等デジタルのさらなる活用、オンラインツアー等新しい形が生まれ、また変化は加速している。観光振興に正解がある訳でもないため、新たな取組みを積極的に進められるとよいと思う。
③地域の価値は全体で計られる
旅行に行ったときに、観光施設やスポットが良いとなれば、その地域の魅力として高く評価され、地域全体の価値を高めていくことになる。滞在者・消費者の価値を考え、官民が連携して役割分担をしながら計画策定を進められれば良いと考えている。

5. その他

田中課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。

また、次回の会議を 3 月下旬に開催する予定であることを連絡した。開催に当たり、参考資料 3「取り組み状況等共有シート」について、3 月 12 日までに作成していただくよう依頼した。

6. 閉会

田中課長が、閉会を宣言した。